

優先業務の選定

判断要因		利益への影響	売上への影響	資金繰り	得意先との関係	社会的影響・批判	その他	重要度の総合判断の順位
業務名								
記入例	製品用部品の生産	5	5	5	5	4		1
	原料の調達	4	4	5	5	3		2
	保守部品の供給	3	3	3	5	5		3

※各項目の内容は、あくまでも記入例です。その妥当性を保証するものではありません。

記入欄								

更に選定したものに○をつける↑

▼ 使い方

- ①自社のすべての業務をリストアップし、中断による利益、売上げ、資金繰りへの影響をなるべく金額ベースで把握します(難しければ段階評価をします)
- ②中断で取引先へ迷惑をかける度合や社会的な迷惑をかける度合(批判される程度)も深刻さを段階分けして考えます(例えば5段階、最低3段階)
- ③これら判断要因ごとの重みも認識しつつ、影響を総合判断して重要業務の優先順位をつけ、最後にいくつか選定します

自社の優先業務の特徴とBCPのイメージ整理表

重要業務の特徴となる事項	該当(YES)	該当せず(NO)
① 再調達に時間も費用もかかる設備に依存しているか (例:多くの製造業、造船業)	設備を守るか、代替設備を確保するかの必要があり、BCPに相当の投資が必要となる可能性あり。	設備再調達による方法も視野に入り、その点、負担が軽いBCPで済む可能性も。
② 自社の製品・サービスの市場シェアが高く、取引先が自社以外から調達がしにくい	取引先の自社へのBCP要求は(今後)高くなる、社会的にも周到な備えが必要となる可能性あり。	取引先は他社からの調達にすぐに切り替える。再開後に戻るのが重要考慮点に。
③ 数時間や1,2日で他社に乗り換えられ顧客が戻らない恐れがあるか (例:ネット販売)	代替施設の確保がほぼ不可欠。補強では復旧が間に合わない。ただ、ITは代替がしやすい。	供給中断→再開を前提にBCPを考えてよい。補強による対応が有効になる傾向。
④ 数ヶ月かかってでも復旧すれば顧客が戻るか (例:近距離だから購入、差別化が大きい)	多大な投資が要る代替施設での早期供給再開は必要なく、その場での早期復旧で足りそう。	顧客が戻る許容範囲を厳密に読み、その時期になんとしても復旧する必要がある。
⑤ 代わりの場所でも業務が実施しやすいか (例:コンピュータ以外は人の活動が中心の企業)	建物が無事なら電源確保程度でよく、建物等がダメなら代替施設での業務再開もしやすい。	その場所の施設、設備の補強が重要。代替施設の確保は多大な投資が必要な傾向。
⑥ 災害・事故後、復旧業務が重要になる業種か (例:インフラ復旧、建設業)	平時の業務の継続よりも、社会的な復旧業務の需要にいかに対応できるかの体制整備が主眼に。	顧客、社員の安全確保、地域支援以外は平時の業務の早期復旧に傾注する。
⑦ 来客が多数で、被害の把握・発信が求められる業種か (例:商店、ホテル、旅客運送)	業務の再開よりも、被害者の救助・支援、情報発信が重要となり、その体制整備が前面に。	社員および関係者を考慮すれば足り、比較的早く平時の業務復旧に傾注できる。

▼ 使い方

- ①「優先業務の選定」シートで重要と判断した業務について、各項目ごとにYESまたはNOのどちらに該当するかを検討します。
- ②検討の結果、特に当てはまる場合は○、一部当てはまる場合は△を、それぞれのYESまたはNO欄に記入します。
- ③記入内容をもとに、自社の業務特性やBCP上の重点対策領域を把握します。

重要業務の特徴となる事項	該当(YES)	該当せず(NO)
① 再調達に時間も費用もかかる設備に依存しているか (例:多くの製造業、造船業)	設備を守るか、代替設備を確保するかの必要があり、BCPに相当の投資が必要となる可能性あり。	設備再調達による方法も視野に入り、その点、負担が軽いBCPで済む可能性も。
② 自社の製品・サービスの市場シェアが高く、取引先が自社以外から調達がしにくい	取引先の自社へのBCP要求は(今後)高くなる、社会的にも周到な備えが必要となる可能性あり。	取引先は他社からの調達にすぐに切り替える。再開後に戻るのが重要考慮点に。

優先業務の許容中断時間検討表

	判断要因	重要度	利益の変動	売上の変動	資金繰り	得意先の意向	社会的影響・批判	その他	許容中断時間
	業務名								
記入例	部品の生産・供給	高	代替生産の実施など経費増が考えられるため変動あり	影響は避けられない生産中断の期間により変動度合いが前後	生産体制維持にかかる費用や復旧費用などにかかる資金の確保を要する	取引先A社(大口顧客)の意向あり	高い スムーズな復旧による信頼関係の維持、対外的な評価の獲得	第二工場に生産ラインを立ち上げ代替生産を開始	7日間
	原料の調達	中	サプライチェーンの二重化により多少の影響も	—	経営を左右するほどの影響は少ないと考えられる	調達先B社(協力会社)より災害発生時の操業停止可能性の言及あり	低い	購買体制を見直し二社購買体制を整備	3日間

※各項目の内容は、あくまでも記入例です。その妥当性を保証するものではありません。

記入欄									

▼ 使い方

- ①表の中から、大事な判断要因をみれなく選び、その要因ごとに許容されると考えられる中断時間(例えば日、週単位など)を記入します
- ②各判断要因の中の最も短い許容中断時間が、達成したい「許容中断時間」になりますが、大まかに考えるので構いません
- ③例えば社屋が倒壊するなど、被害想定によって許容中断時間が大きく異なる場合は、「社屋が倒壊した場合」「社屋が倒壊しなかった場合」など、2段階に分けて整理しておくのもよいでしょう

優先業務の目標復旧時間検討表

	判断要因	重要度	許容中断時間	現段階の対策で 可能と思われる復旧時間	今後実施する対策による 復旧時間の短縮の見込み	目標復旧時間 (経営判断による)
	業務名					
記入例	部品の 生産・供給	高	7日間	6ヶ月間	7日間	7日間
	原料の調達	中	3日間	不明	7日間	7日間

※各項目の内容は、あくまでも記入例です。その妥当性を保証するものではありません。

記入欄						

▼ 使い方

- ①さきほどの表で掲げた許容中断時間を記入し、現段階で想定される復旧時間を記入します
- ②「今後実施する対策による復旧時間の短縮の見込み」は、おおまかなもので構いません。後のステップで必要な対策が明らかになった段階で、ここに戻って考え直すことが可能です。行きつ戻りつの検討の一段階と考えてください
- ③「目標復旧時間(経営判断による)」も、同様に後からここに戻って考え直すことが可能です

優先業務マッピングシート

重要度	業務名	目標復旧時間 ※即時、1日以内 3日以内、その他	重要業務 の責任者	必要な 人員	重要業務に必要な資源		備考
					人手による一部代替が 不可能な資源	人手による一部代替が 可能な資源	
記入例							
高	製品用部品の生産	7日以内	生産部長 (氏名を記載)	20名	・主要生産設備 ・専用金型 ・電力供給	・一部手作業で 代替可能 ・外注	・出荷遅延 リスク大
高	原料の調達	3日以内	購買部長 (氏名を記載)	5名	・主要仕入先との 契約 ・港湾輸送ルート	・国内代替仕入先 ・緊急輸送手段	・物流停滞に 注意 ・在庫管理 強化

※各項目の内容は、あくまでも記入例です。その妥当性を保証するものではありません。

高							
高							
中							
中							
低							
低							

▼ 使い方

- ①重要度を設定した優先業務とその目標復旧時間を記載します
- ②各優先業務に対し、責任者、必要な人員、必要な資源について記入します
- ③営業時間と営業時間外で対応を分けて用意する必要がある場合は、営業時間内、営業時間外それぞれのシートを用意します。同様に、災害が発生してからの初動期、対応期、復旧・復興期ごとでもシートを分けて用意することをおすすめします